

パティオ池鯉鮒・公園通周辺の整備方針、実現施策（案）

4. 整備方針

①パティオ池鯉鮒周辺

●野外彫刻プロムナード展の位置づけと組織体制の強化

現 状

- ・ 毎年入れ替えるという企画コンセプトのもと、学生の作品を中心に設置しており、学生や若手作家を「育てる」ための発表の場として機能してきました。
- ・ 愛知教育大学の宇納教授に、作品の選定から設置に至るまで全てプロデュースをお願いしてきました。
- ・ パティオ池鯉鮒に来る市民以外には認知度が低く、また市民からの反響を把握する取り組みが少ない状況です。

今 後

- ・ これまで通り、学生や若手作家を「育てる」ための発表の場として活用します。
- ・ 愛知教育大学との連携をさらに強めるとともに、これまでプロムナード展に参加いただいた作家の方々やライオンズクラブ、ちりゅう芸術創造協会、商工会、文化協会、ロータリークラブ、その他団体のご協力も得ながら、野外彫刻プロムナード展振興運営委員会の組織強化を図ります。
- ・ 市民の認知度をより高め、市民が作品に関わる機会を増やす取り組みの充実を図ります。

●パティオ池鯉鮒周辺の空間の更なる活用

現 状

- ・ パティオ池鯉鮒は館内の中庭や通路にも様々なアートがあり、市民の憩いの場として親しまれています。そして野外彫刻プロムナード展は、パティオ池鯉鮒の館外にあるアートとして、周囲を散策する市民の目を楽しませてきました。

今 後

- ・ 施設内外で文化芸術を楽しめるという、パティオ池鯉鮒の文化発信拠点としての価値を更に高めるため、今後はエントランスロードだけでなく、間瀬口川の散歩みちでも彫刻やアートのある風景づくりができないか、検討します。

②公園通周辺

現 状

- ・ これまで設置した11体の彫刻は、野外彫刻プロムナード展の参加作家の作品であり、公園通周辺は、野外彫刻プロムナード展の延長線上にある空間として位置づけられます。
- ・ 作品の内容は、野外彫刻プロムナード展に比べると、その場所の空間構成を十分に

踏まえ、市民が愛着を持って永続的に親しむことができるよう配慮されており、公園通周辺の「彫刻のある風景」は、既に充実しています。

今 後

- ・ 設置された作品の維持管理を行います。
- ・ 作品によっては壊されやすいものもあるため、場合によっては作品の入れ替えも検討します。
- ・ 周囲の環境整備や市民への理解を深めることにより、事故を未然に防ぐようにします。特に植栽については、作家の意図や市民の利用状況を踏まえ、適正に管理を行います。

5. 実現施策

①パティオ池鯉鮒周辺

●野外彫刻プロムナード展の位置づけと組織体制の強化

- ・ 第 15 回野外彫刻プロムナード展までは、第 1 回から今日まで続けてきた方法で実施します。
- ・ 第 16 回以降は組織体制の強化を図り、事業形式や予算規模について再検討します。方向性としては、愛知教育大学との連携だけでなく、これまで野外彫刻プロムナード展に参加いただいた作家の方々のご協力も得た上で、市民参加による作品選定等の手法も取り入れていくことを目指します。
- ・ パティオ池鯉鮒で実施している「パティオ DE 夏休み」や「パティオ DE クリスマス」等の事業に、野外彫刻プロムナード展振興運営委員会も積極的に参画し、子どもたちがアートに親しめる機会を増やします。
- ・ 市のホームページの活用や、パティオ館内でのパネル展示等、作品の情報提供の充実を図ります。

●パティオ池鯉鮒周辺の空間の更なる活用

- ・ 施設内外にあるアートを一体で紹介した散策マップを作成します。紹介方法としては、作品の位置だけでなく、作品の解説を含めたものとします。
- ・ パティオ池鯉鮒沿いの間瀬口川の散歩みちには、市民が植樹した桜並木がありますが、この桜並木と調和するアートが展開できないか、検討します。

②公園通周辺

- ・ パティオ池鯉鮒周辺の散策マップと同様に、公園通周辺でも作品解説付きの散策マップを作成します。
- ・ 市民の利用状況を踏まえて各作家にヒアリングを行い、作品の維持管理基準について整理します。